

## 令和3年度 認定特定非営利活動法人UNE 事業報告書

### 【総括】

農福連携を通じて活動の充実、拡大を図ってきた。特に、作業分野に於いては、ノウフクレート、ノウフクメンバーという指標を定め、誰もが安全に容易に取り組むことの出来る作業、具体的にはヨモギ、クロモジ、そして笹などの採取事業を中心に試行錯誤を繰り返し、それら採取事業による事業収益が全体の4分の1までになり、今後、それら事業の拡大によりより多くの障がい者、生活困窮者そして高齢者が活躍できる「しごと」の創設が出来た。

また、キッチンカー事業の開始により上記同様、障がい者を中心とした活動分野の拡大が図られた。

一方、2年以上続くコロナ禍の影響で、飲食、宿泊、どぶろく部門での売り上げが低迷し、コロナ禍の早期終息が望まれる。

なお、コロナ禍2年目ということもあり、初年度のような政府からの事業継続や家賃支援などの各種給付金はなく、施設整備に係る経費への一部 補助金、助成金を貰い調理場、加工場、客室、トイレ、加工用器械などの整備を行ったが、その自己負担分があったり、加えて例年に比べ職員スタッフの出入りが多かったりしたため人件費も増加したため財政的には厳しい年度となった。

職員、スタッフ、大きな事故もなく、UNEHAUS 内でのコロナの蔓延もなく、健康で楽しく1年間を過ごせたことは大きな成果であった。

各事業の実績は定款に記載している下記 13 事業の順で報告した。

1. 地域活動支援センターの運営事業
2. 農業生産・加工事業及び販売
3. 農業サービス事業
4. 障害者の仕事となりうる各種請負事業
5. 農村と都市との交流事業
6. 地域活性化事業
7. 農村からの情報発信事業
8. 農産品特産品の料理提供で障害者就労を創出する飲食事業
9. 送迎事業
10. 障害者の仕事となりうる各種人材派遣事業
11. 農家民宿事業
12. どぶろくの製造及び販売
13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

## 1. 地域活動支援センターの運営事業(長岡市補助事業)

令和4年3月時点で地域活動支援センターの利用者登録は31人で、年間の利用者総数は2,015人日であり、利用日の平均利用者数は8.8人であった。

最近の特徴は精神障がい者の利用者が増加する傾向にあり定着も進んでいる。

## 2. 農業生産・加工事業及び販売(共同募金助成金を活用)

### ① 田んぼ(一之貝地区)

- ・今年度よりコシヒカリBLの作付けをやめ、従来コシヒカリ、亀ノ尾、農林1号、大正糯の4品種とし、品種を絞ることで管理の簡素化を試みた。
- ・コシヒカリBLをやめたことでJAからの苗購入がなくなり、別途他所で育苗してもらい、田植え前日に苗を引き取ったのでUNEの育苗の手間はゼロであった。
- ・田植えの際、苗箱の種籾入り数が少なかったため欠株が出た。それら補植も十分でなかったため疎植となり新年度は種籾を3割増やす。また、田植え機の苗取り設定も本数も増やし密植を試みる。
- ・担い手不足による堰(水路)整備が徹底できないなどで、水不足も心配されたが代掻き前の畔塗りをほぼ全圃場行い圃場の溝切を行ったことで水持ちが改善された。天候の推移も長雨、高温など少なく順調に生長した。
- ・今年度は全圃場、全品種に初期除草剤とカメムシ防除剤を使用した。除草剤は畔塗りによる水持ち改善で効果がよく出た。カメムシ防除剤も出穂後の適期散布ができ、カメムシ被害米は9割低下した。農薬の適切使用が品質の向上に大きく貢献した。
- ・肥料は有機の成分数の少ない肥料を使用したため、栄養不足で全体的に生育が悪かった。また、肥料の撒きムラもでたので、均一に散布するように今後注意する。
- ・猪の被害は8月の水を落とした頃から始まり面積で20a程被害を受けた。いわゆる収穫米の獣臭さは感じず、食味等にはほぼ影響はなかった。対策として行った圃場周辺の樹木の伐採や薬剤散布は効果が薄いようであった。対策として12月に職員2名狩猟免許(わな免許)を取得したので、今後囲いわなを作って猪を捕獲したい。
- ・今年度はJAへの米の販売は行わなかったが、米の品質検査は農協に依頼した。従来コシ、農林1号は1等米、大正糯(餅米)は未熟米が多く2等米となった。
- ・稲作全体の総労働時間は358時間、総労働人員は190、延べ労働時間人は760時間/人  
ノウフクメンバー2.1人、ノウフクレートは365。(R2年度はノウフクメンバー1.8人、レート111)



### □亀ノ尾(9a)

どぶろくの原料用米、圃場を建石へ移した。生育はよく、倒伏もなかった。

収量240kg、反収5俵

### □大正糯(71a)

栽培面積を拡大し増産を計画したが、長稈化による倒伏、猪の侵入も5圃場で確認され、計画していた収量は達成できなかった。収穫し米は餅の原料として他所に委託し餅にしてもらい独自に販売、残りは「ぬれおかき」の原料として販売した。



収量1,410kg(23.5俵)、反収3.3俵

□従来コシヒカリ(39a)

有機、低農薬栽培をやめ圃場も堂田へ移した。初期除草薬を使ったことで雑草を押さえることが出来た。収穫は、コンバインによる収穫とテレビ番組の取材対応のため手刈りの収穫でパフォーマンスを行うことが出来た。

収量 1,410kg (23.5 俵)、反収 6 俵

□農林 1 号(43a)

昨年より圃場を増やし、大谷地最上段の圃場 3 枚、43a にて栽培した。分けつが不足するなど、生育は思わしくなかった。落水後、圃場内に猪が侵入、7a ほどに被害が発生した。

収量 780kg、反収 3 俵

□クロモジ試験圃場

耕作放棄地を活用したクロモジの栽培(7 年目)

素材としてクロモジを販売する為、一部を伐採し販売した。

□ヨモギへの転作

イノシシの被害が顕著な圃場 10a を収穫後の 10 月に新たにヨモギへと作付け転換を計画した。水はけが悪く耕耘、畝立てしても水につかるような状態だったが計画通りヨモギ苗を植えた。活着しているかどうか不明。



② 畑作(千秋地区および一之貝地区)

今年度はセブンイレブン財団から助成を受け、農作業に必要な草刈り機や鍬、鎌、レーキ、ほうき、手袋等の購入を約 26 万円助成してもらった。

□ 『福祉・市民体験農園Oasis.R』に今年度は市内の労働組合などが参加し耕作面積は 12a だった。

その内の青年、女性のグループは月 1~2 回の 10~15 人ほどのメンバーが UNE の週末イベント等に参加者と一緒に作業し、収穫した大半をフードバンク等に寄付した。

□ 4 月に農園のオープンイベントを行い、40 名の参加でふるさと森管理棟からウネの畑までゴミ拾いを行い、河川協力団体としての作業を行い、そのあとジャガイモの種まきや枝豆の種まきを行なった。



□ 5 月にはこども園の園児ら 70 名が 2 班に分かれてサツマイモの苗を植える農業体験を行った。

□ 7 月にはもう一度ゴミ拾いを実施した後、4 月に植えたジャガイモの収穫と枝豆の収穫を行った。枝豆はすぐゆでて食べ、お昼には畑でとれた野菜を天ぷらにして天井を作った。36名の参加。



□ 9 月にこども園の園児ら 70 名が 2 班に分かれ、春に植えたサツマイモを収穫した。

□ 日赤病院の下の昨年埋め立てた約 10a に菜の花の種をまいた。春には黄色い絨毯が日赤に入院しているかたの目に触れることを期待している。

□ 原則として毎週木曜日の午後からボランティアの方から千秋の畑に行ってもらい、草取り、草刈等の管理をしていただいた。今年は延べ 43 回千秋の畑で作業した。



ノウフクレート(収入-経費)÷(延労働人数×時間) = -19

ノウフクメンバー(延人時間÷延べ時間)

(566.75÷183.25) = 3.1 人



### ③加工

#### I.くろもじ事業

- 昨年同様、障がい者や高齢者を中心とした「しごと」として重点的に行った。また、UNEへ見学や実習に来る障がい者や高齢者に対しても誰でもできる入門的な「しごと」として機能する事も分かってきた。その他、地元のばあちゃん達にも繁忙期に手伝ってもらい大きな戦力となった。

##### (1)くろもじ茶

- 採取から商品化まで、障がい者や高齢者が中心となり携われるよう仕事の切り出しと、各担当の育成を行う事ができた。
- 長岡市等から衛生管理用品を補助頂き、経費の節減と衛生意識の向上が図られた。
- お茶の作業見直しや治具の導入を行い綺麗に早く商品化できるようになった。
- 洗浄した葉を脱水する小型脱水機購入、乾燥室の増設をプロパーで、お茶用の枝を細かく切る器械を真柄福祉財団より助成してもらい導入し、生産性が向上した。
- 新規に「春摘茶」を試験的に発売した。(200袋完売)
- リーフティーの原料を5月下旬から7月末までの良い状態の素材を集積的にストックし、品質の向上を図った。
- お茶にできない素材については搾油に回す事で廃棄ロスをなくした。
- 加工所の整理整頓と掃除を行い生産性が向上した。



##### (2)ミスト・アロマアイテム

- 素材はお茶の採取と一緒に作業重複しないようにした。
- 搾油は納谷が行ったが、障がい者や高齢者の「しごと」までにはならなかった。

ノウフクレート:くろもじ事業全体:673(くろもじ茶:274、ミスト:2,382、アロマアイテム:2,236)

#### II・大正餅事業

毎年販売数を伸ばしている大正餅だが、今年の収量を鑑み増産は見送った。各チャンネルでレポートしてくれる方も増えてきた他、一度食べて美味しかったからとおかわりで再度購入する方もいた。

- 発送業務の一部をスタッフにしてもらったが、半日仕事までの仕事量にならなかった。
- シール貼りや箱詰めはスタッフと一緒に任せ、「しごと化」できた。
- カビは3月に納品先で確認され返品を行った。UNEで保管している餅にカビは確認されなかった。

(5/20日現在)

- 端餅も同じ重さに統一してもらい販売を行った。

- 2袋、3袋の発送をヤマト運輸持ち込みに変更し、送料の抑制を行った。
- できるだけ手数料の低い所に集中的に販売するようにしたが、在庫が年を越えてしまい仕事の切りが悪かった。
- ふるさと納税返礼品も思ったほど伸びず、むしろ早めの掲載の方がよいようだ
- ふるさと納税返礼品は寄付額が1万円になる様調整した。

ノウフクレート:3,687(米@13,000で仕入想定)

### Ⅲ・梅干し事業

令和2年年度は梅が不作だったが、令和3年度は梅が豊作で300kg程度漬込む事ができた。梅の採取はスタッフが、調整、選別はスタッフと高齢者が行えるので「しごと化」もできた。

- 作業は加工場がキッチンカーで使っている為1908HAUSで行ったので広く作業がしやすかった。
- スタッフが中心となって漬込み、管理を行った。
- 土用干しの時期を逃し、8月になって集中的に荷頃のハウスで干す作業を行った。



ノウフクレート:162(在庫の売上分は含まず)

### 4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業

☆地域に根ざした請負作業:雪下ろし、農作業の手伝い、草刈り

□雪下ろしは1月中旬から2月末にかけて断続的に大雪が降り、UNEには今年23軒の雪下ろし名簿登録があり、うち要援護者世帯は6軒。名簿登録のうち、実施しなかった家、2回、3回実施した家とあったが、合計28軒回の雪下ろしを行った。

※総労働時間90時間、総労働人数205人、延べ労働時間395時間。

ノウフクメンバー:4.3人、ノウフクレート:2,720



□一之貝の高齢者宅の障子の張替え、除草作業、墓掃除などの地域の便利屋としても活動した。

□アパートの清掃及び修理、荷物の片付け等も行った。

□道路除草や剪定補助などの造園業請負、計35日間、73人/日【前年度計20日間、83人/日】の作業を行った。今年度からバイパスなど新規の作業が入り、日数、人員が増加した。また、冬囲いの作業で10日22人の人出を出したが、手先の器用な人しかできない作業であり、誰でもできる作業でなく稼働人員は限られた。

総労働時間145時間、総労働人数122人、延べ労働時間888時間。

ノウフクメンバー:3.5人、ノウフクレート:1,050

## 5. 農村と都市との交流事業

コロナ禍の影響もあり中々予定通り進まなかった。また、地域の合意形成も難しく、地域外の来訪者を呼び込む動きは出来なかった。

・4月 山菜クウカイ 7名、10月 キノコクウカイ 13名



## 6. 地域活性化事業

長岡市の地域おこし協力隊員を希望する人材のお試し実習を3名受け入れた。

内、1名が年度末3月に隊員として正式に配属になり、3年間の任期で活動を開始した。

## 7. 農村からの情報発信事業

地域広報誌「うね日和」を各月900部から各月950部に増刷、新規で長岡市社協「トモシア」と枋尾道の駅に置いてもらった。また、webでの配信も従来のPDFの他にテキストでの配信も行う事で読みやすく改善した。

その他、Instagramでほぼ毎日うねご飯を更新した。

Facebookの取り組みは相対的に少なかった事が反省。

## 8. 農産品特産品の料理提供で障害者就労を創出する飲食事業

### (1) 給食(うねご飯)事業

コロナ禍の影響もあり、外来客は減少、約3,800人がお昼ご飯を食べた。



### (2) キッチンカー事業

令和3年3月から事業を開始。

#### ① アオーレ長岡での弁当販売を中心とした弁当販売事業

・仕事の創出

出店時に他の業者と競合すると販売数が伸びない事が分かり、競合店が少ない日に出店するよう調整したが、仕込や買出し等段取りが複雑化し、利用者の仕事に結びつきにくい状況になった為、令和4年3月より毎週木曜に出店日を固定し、段取り等を付けやすくする事で仕事を創出する事ができた。

・原価・利益・廃棄等

価格を税込500円とする事で作業の簡素化を図ったが、原価率が高止まりしており、次年度の課題として残った。廃棄については安価で地元の高齢者の方や、利用者さんに販売する等の対策を行い、ほとんどロスは出なかった。味やボリュームはすこぶる評判で固定のお客もついているので、柱の事業として伸ばしていきたい。

・実績 延べ44回販売、一回当たりの販売数41.2個



#### ② かき氷事業

真柄福祉財団より助成して頂いたふわふわのかき氷を提供するかき氷事業は7月に上越市エルマールで開催したお茶フェスと8月13、14、15日に長岡市「道の駅はなび館イベント広場」での販売(コロナ禍、天候

不良)、キッチンカーで協働した今泉テントへの訪問提供の3回しか出店できなかった。また、出店を行う中で、ふわふわのかき氷は風に弱く、野外での提供は、良い品質を保つ時間が短い事が分かり、キッチンカーで販売するには根本的に提供の仕方や仕立てを変えなければならない事が分った。

### ③ 地元ショッピングモールでの赤飯販売事業

栃尾市内のショッピングモールでしょうゆ赤飯の販売を開始した。土地柄、しょうゆ赤飯への人気が高く、そして愛着が深く、UNEで作る赤飯の味が良いことから販売数も安定し、固定客もついてきた。

・実績 4回出店 赤飯販売数840個、キムチ13kg



### 9. 送迎事業

送迎会員を登録し、また、同一の医院への送迎日時を統一することで、出来るだけ効率よく対応できるよう改善した。

新潟県共同募金会が今年度より開始した「にいがた・テーマ型募金」に応募し当選。124名の方から97万円の浄財をいただき、加えて、共同募金会からの助成も含めると総額111万円にもなり、新年度の送迎事業に活用できるようになった。



### 10. 障害者の仕事となりうる各種人材派遣事業

北苜頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局を担当、代表理事が事務局長として協議会の運営に携わった。

### 11. 農泊事業

#### (1) 全体

令和2年年度同様コロナ禍において、長岡花火が中止になる等人流が抑制された一年だったが、特にKS☆HAUSは一棟貸しの物件として大人数(4人~8人)のお客様が利用されるようになった。準備や片付けは障がい者や高齢者のしごととして非常に有用だった。

- ・ある程度障がい者や高齢者のユニットで準備や片付けが出来るようマニュアルやチェックシートを整備した。
- ・主な申込みサイトはairbnb、楽天トラベルだった。
- ・長岡花火が中止になった。
- ・KS☆HAUSは非接触のチェックイン、チェックアウト体制で運用した。
- ・障子の張替え、年2回の大清掃を実施した(3月に1回実施予定)
- ・リネンは自社で洗濯を行い乾燥はコインランドリーを使用した。
- ・電気代節約の為、Wi-Fi撤去した他、便座暖房の停止を徹底した。
- ・トチオンガーセブンの撮影クルーの宿泊や地域おこし協力隊の実習時の宿泊等の特別宿泊も有った。
- ・実績

延べ宿泊 UNEHAUS:35人泊、KS☆HAUS:90人泊

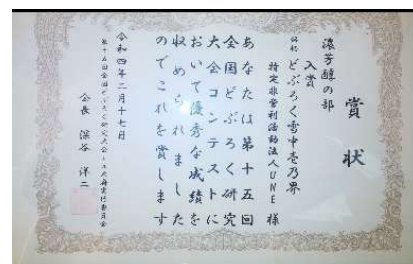
ノウフクレート:-1,635

## (2)IKUREYA I908HAUS 事業

令和元年から管理が始まった旧三本邸「IKUREYA I908HAUS」は上記同様コロナ禍の影響も勘案し得に改装等行わなかったため、具体的な効果は無かった。利用案としては民泊施設の他、かき氷やパン屋も検討したが、電気設備、アンペアの関係で店舗として活用するには費用がかかる事が分かった。

来訪された方に見学を勧め、建物、景観は素晴らしく良い素材という評価を頂いた。一之貝、荷頃地区への来訪動機、シンボリックな存在になるべく整備したい。

- ・梅選別、熟成、梅干し仕込みの作業所、梅干し貯蔵所として利用した。
- ・体験を含めたツアー案を通訳士兼ツアーコンダクターに提案、アフターコロナで協働する事になった。
- ・保健所に農泊、飲食店、簡易宿所についての問い合わせを行った。



## 12. どぶろくの製造及び販売

- ☆ 平成 27 年 6 月 酒類販売許可取得
- ☆ 平成 27 年 10 月 その他の醸造酒製造許可取得
- ☆ 平成 29 年 3 月 酒類ネット販売許可取得

令和3年4月から令和4年2月までの出荷量は、蒸米 171,140 ml、米粉 98,640ml 合計 269,780ml でした。四合瓶で 375 本。前年比約 16%の減少になった。

コロナ禍の影響で、東京ネスパスのどぶろくフェアの中止に始まり、酒の陣、グリーンピア津南のどぶろく博覧会等がことごとく中止、加えて新年会、忘年会、宴会の中止も重なり大変な痛手であった。

そんな中で2月に愛知県大府市で開かれた第15回全国どぶろく研究大会において、銅メダルにあたる入賞をもらった。どぶろく製造を始めて6年で2回の受賞は、品質が認められた結果だと思う。

1月初めから雪の中でどぶろくを熟成させた、雪中貯蔵どぶろくの試飲会を3月18日に上記受賞の祝賀会も併せた形で行った。

どぶろく友の会の会員は13名で昨年の半分。

## 13 その他

長岡市の「未来へつなぐ公益団体応援補助金」を活用し、野外で使用できる折りたたみ机3台、折りたたみ椅子12脚、アルコール消毒液、使い捨て手袋、野外用厚手シート、合計10万円の助成を頂き次年度より野外での活動の幅が広がった。

以上